

第34回国際農業機械展 i n 帯広が12日、市内の北愛国交流広場で開幕する。過去最多の国内外134社が最新機器を展示する。16日までの5日間で20万人の来場者を見込んでいる。



開幕を翌日に控え、準備作業が大詰めの国際農業機械展会場

4年に一度、十勝で開かれる国内最大の農機展。ホクレンと北海道農業機械工業会、十勝農業機械協議会が主催する。今回は「ICTとともに更なる未来へ」がテーマ。情報通信技術による無人化や生産性の向上を実現する約1000点の機器が並ぶ。

開場は午前9時～午後4時で、入場無料。午前10時から開会式が行われ、無人ロボットトラクターのデモ走行も行う。農林水産省の野中厚大臣政務官、高橋はるみ道知事、ホクレンの内田和幸会長らが出席する。

会場には駐車場がないため、幕別町の札内橋南側に無料臨時駐車場を設置。臨時駐車場とJR帯広駅から無料のシャトルバスを運行する。

雨で会場がぬかるんでいるため、長靴での入場を呼び掛けている。

◆十勝の食も発信 「食彩祭」に50店 ステージも

第34回国際農業機械展 i n 帯広に合わせ、フードバレーとかち食彩祭2018も開かれる。出店は前回より10多い50店舗で、十勝産食材を使ったグルメを提供する。

農機展と同じ帯広市北愛国交流広場が会場で、開催期間も12～16日で同じ。豚丼や十勝和牛などの飲食、農機ミニチュアの物販ブースなどが出店する。

一日限定の特別出展として、14日には十勝パンを300食限定で販売。15日には新得手打ちそば愛好会が十割そばを出す。

そのほか、快盗戦隊ルパンレンジャーと警察戦隊パトレンジャーのキャラクターショーや、My'sなどが出演する歌謡ショー、郷土芸能ステージ、若手農業者らの活動報告がある。

また、北海道150年に合わせて、「北海道」の名付け親として知られる松浦武四郎関連のパネル展示も実施する。

食彩祭事務局は「十勝の食が全てそろっているの、期待して食べに来てほしい」としている。午前10時～午後4時。

第34回国際農機展

2018年7月12日

最新機械と食ずらり 十勝の魅力発信 食彩祭も開幕

12日に開幕した「第34回国際農業機械展 i n 帯広」。会場の北愛国交流広場では最新鋭の農業機械の展示ほか、十勝産食材のグルメを提供する「フードバレーとかち食彩祭2018」も始まり、初日から熱気に包まれている。管内外から多くの農業関係者や家族連れなどが訪れ、見学や味覚を楽しんでいる。



食彩祭で十勝産の食材などを使った料理を味わう来場者

◆50店舗が出店 祭りムード満喫 食彩祭

○…フードバレーとかち食彩祭2018には、管内の飲食店や市町村による約50店舗が出店。「十勝産の食材を必ず取り入れる」をテーマに料理が並び、来場者を楽しませている。

十勝ヒルズ（幕別）は焼きそばや蒸し野菜などを販売。焼きそばの塩だれには自社製の長いも酢を使用している。野菜や肉、小麦粉など全てに十勝産の食材を使い、「十勝の魅力の発信基地として頑張りたい」と意気込む。

昨年大阪から池田町に移住し、養羊業を営む上原隆治さん（41）と妻の千野さん（31）は、ラクレットチーズ餃子（ギョーザ）などを食べ、祭りムードを満喫。農機展の規模の大きさにも驚き、隆治さんは「どのような最新の技術があるのか知りたい。そこから将来の農業の方向性が見られる」と話した。